

バースデーフラワー

～トルコキキョウ～



① ピンクグラデーションのリシアンサスブーケ ¥3,500 + 税

木々の緑も日に日に深まる季節となりました。梅雨入りとともに雨後の緑が鮮やかに映るこの時期おすすめのバースデーフラワーに、清々しい美しさのトルコキキョウはいかがでしょう。

トルコキキョウとはその和名からキキョウ科の植物と誤解されることがありますが、原産地は北アメリカのテキサス州周辺に分布するリンドウ科の植物のことをいいます。19世紀頃イギリスへ渡り、リシアンサスと名付けられたのちにユーストマへと名前を変え、日本へは大正時代に持ち込まれています。その後、二度の世界大戦によって海外ではほとんどが絶えてしまいましたが、日本で生き残ったユーストマは品種改良を重ね、現在のトルコキキョウになりました。今も尚、日本が世界の中心となって品種改良が進められています。ちなみに、和名の由来は花の形がキキョウに似ていること、トルコの花に似ていること、海外から来たという意味でトルコ、など諸説あるようです。

また、以前はトルコキキョウといえば一重咲きのものが一般的でしたが、近年、華やかさのある八重咲きの人気が高くなり、多く出回るようになりました。豪華でエレガントな大輪品種や、小ぶりでも上品な姿がかわいらしい小輪品種、重瓣咲きや絞り咲きなどがユニークなバイカラー品種など、形や色のバリエーションも豊富で、ギフトには欠かせない存在となっています。

そして6月からは出荷量全国第1位の長野県産の出荷も始まり、中でもフラワースピリットさんの作るトルコキキョウは全国的にも名高く、その理由は彩花までに時間をかけている点にあります。花を熟成させ、咲かせることで種の中で日持ちが良いといわれています。もちろん名古屋園芸でも取り扱っていますので、今月はそんな最高品質のトルコキキョウでバースデーギフトを贈られてみてはいかがでしょうか。



② 爽やかなカラーのリシアンサスアレンジ ¥3,500 + 税



③ 涼やかな雰囲気のリシアンサスアレンジ ¥3,500 + 税

花かがみ

HANA-KAGAMI

発行人/小笠原 繁 発行所/名古屋園芸株式会社
〒460-0905 名古屋市中区東郷2-18-13 tel. 052-831-8701
http://nagoyaengei.co.jp/

19 6

名古屋園芸

イエロー×グリーン
初夏を楽しむ



「群芳園実写絵」より ハナショウブ「霓裳羽衣」

江戸後期の幕臣、松平左金吾(高橋とも)著、「花高僧塔美録」に因んで記載のある「高橋花」の代表的品種「群芳園実写絵」は大坂池田の榎木園、群芳園河村惣七郎、明治中期に手広く園芸商として活躍した人、亮軒記

日陰を楽しむ シェードガーデンの魅力

日陰だと植物が育ちにくい、花が付かないといったイメージが強いように感じますが、そんなことはありません。むしろ日向では見ることのできない植物の魅力があるのです。夏のシェードガーデンには欠かせない存在、ペゴニア。日陰で育つ代表花といっても過言ではないでしょう。日陰で育ちながらも丈夫で、可愛い花を咲かせます。花の色に加えて、一重咲き、八重咲き、緑葉、銅葉など種類豊富なペゴニア。日が当たりにくい玄関先やベランダにいかがでしょう。



① ホワイトのペゴニア(センパフローレンス)は暑い時期でも涼しさを感じさせてくれます。



② ホスタは見せ方次第で和風洋風どちらにも合います。



③ コロンとして、可愛い八重咲きペゴニア(ハンダブル)のハンギングバスケットです。



④ インパチエンスは秋までたくさん花を咲かせてくれます。お世話が苦手な方にもおすすめです。

インパチエンスもペゴニアと並ぶ日陰の人気者です。なんといっても、その魅力は花付きの良さでしょう。次々に新しい花を咲かせ、古い花は自然に落ちるのでお世話も楽々です。そして日陰のグリーン代表ホスタ。注目して頂きたいのは葉の色が保たれるのです。さらに、葉が水滴をはじく姿はシャッターチャンス。神秘的な美しさを見せてくれます。暗い日陰も明るく綺麗に見せてくれる植物たち。暑い時こそ日陰で涼みたい! そんな時に日陰に彩りを与えてくれること間違いなしです。日陰だからと諦めるのはもったいない! 日陰だからこそできるシェードガーデンを楽しみましょう!

花の博物館 第281回

いけ花をする美人(仮)

喜多川野蘭(初代) 寛政頃作(一七八九〜一八〇二) 榎本屋吉兵衛 版



哥蘭が活躍した天明・享和のころ(一七八一〜一八〇四)ごろは、いけ花が大流行した時期と符合する。將軍家治もいけ花を好み、当時の池坊の当主も江戸城へ参上し、いけ花をいけたと云う。また各地で「花会」と称していけ花の展示会が開催された。こうした風潮を浮世絵の版元は見逃すはずもなく、本作品のような「いけ花」を主題とした作品も意外に多く残されている。しかし、この作品には少し?の部分がある。先ず右側の美女の持つ鉢である。この鉢は振鉢で、今日で云う池坊鉢である。この鉢は名の通り振って閉まるもので、絵のように指を振り振って行うのは植木鉢である。哥蘭も鉢の型は知っていても振鉢を振るには使用していなかったであろう。次に花器になぜ?と思うものがある。柱掛けは、うしろやそばの上げ籠、吊花は土瓶、最も不思議な器は左の美人の後ろにある変わった形の器である。この器は、早賀源内が「物類品備」に「舊標」(バラの香水)などこうした器、即ち、ランビキ、にて製す、と記している化学機器の一種である。こうした道具が一般人の目にふれるところで売っていたのであろうか。浮世絵は読み解くと面白い。

information クラシカルプランツ イワヒバ展 6/1(土)~16(日)



葉がヒノキに似て岩場に生えているシダの仲間、漢字では「岩櫛葉」とかきま。江戸時代から楽しまれている伝統植物で和の観葉植物です。今までは伝統植物として器も和のテイストで楽しむことが一般的でした。今回は現代の雰囲気合う、カジュアルでポップに楽しめるように提案したいと思います。手ごろなサイズ感、手ごろな価格で楽しめますので、ぜひ手にとってご覧ください。